

開催日：2003年11月30日
開催場所：Tiサーキット英田
天候：くもり



おいコラッ!
あくまで主役は
オレ様だぞ!!

チューニングカー



日産改造車だらけの大運動会!

ラーマン山田の

NISMO 奮戦記 FESTIVAL

ラーマン神出鬼没のビックリドッキリ企画、第2回目の襲撃ポイントは超ビッグイベントのニスモフェスティバル! まあ、正直言っちゃおうと襲撃というのではなく、「ニスモからお呼びがかかっちゃってよー。ひと暴れてやるからオマエら(OPT)取材に来い!!」というラーマンからの一報を受けての取材となりました。というわけで、今回はニスモフェスティバルのイベント報告をしつつ、ついでにラーマンの活躍っぷり(?)も紹介するってことでヨロシク!



西日本初上陸のニスモ祭りに3万8000人のファンが大集合!
今回で7年目を迎えたニスモフェスティバル。これまでは毎年、富士スピードウェイで開催されていたんだけど、03年夏から富士が1年半におよぶコース改修工事に突入ってことで、今回の日産改造車大運動会は岡山県にあるTiサーキットで行われたんだ。
西日本初上陸となった今回、あいにく前日の11月29日が台風21号の影響でドンシャ降り。しかも天気予報では11月30日も雨だったため、当日の観客動員数が心配されたんだけど、フタを開けてみれば3万8000人のファンが詰めかける大盛況! 天気も快晴とはいかなく、ファンの熱い思いに添えてくれたらってかんじ。今年、ニスモはGT選手権のGT500クラスザナヴィ・ニラモGT-RとGT300クラスハセミスポーツ・エンドレス、さらにスーパー耐久でもクラス1(エンドレススポーツ)を制覇するなど、レース界はまさにニスモ一色と言っ

たいいほどの1年だったわけ、お天道様もそれを祝福するために、雨雲をフツフツはしてくれたのかも。開催イベントも、とっても濃い内容。日本で、世界で名勝負を演じてきたレーシングカーによるカテゴリー1混走模擬レースや現役プロドライバーによるマーチカップ・エキシビションレース、もうお馴染みのGT-R&シルビアのチューナーズバトルもあったし、今回が初開催となるD1マシンによるドリフトエクストリームショーもあったぞ。もちろん、ほかにも同乗体験走行、ドライバートークショー、レースクイーン撮影会などなど、例年どおりに特盛り状態でイベントが用意されていたよ。
ということで、ここではニスモフェスティバルをレポートするわけだけど、この企画の主役は二応ラーマンだ。てことをお忘れなく。っていうか、頭の片隅にも入れておくれればOKです。それでは、次のページから日産改造車大運動会をレポートしよう!

ニスモフェスティバルイベントレポートはじまるよー♡

●スカイラインGT-Rクラス

決勝で速さを見せたのがMCR(左の赤)。雨の予選ではセッティングが合わず、さらに小林真一選手も今回がT1初走行だったために予選は6番手どまりだったんだけど、そこはさすがに名の通ったMCR小林。前日遅くまで足まわりのセッティングを行い、決勝では見事に2位、そしてファステストラップもたたき出したぞ。



GT-Rクラス決勝リザルト

順位	ショップ名	型式	ドライバー	ベストタイム	予選順位
1	NISMO	BNR34	田中哲也	1'45.979	1
2	MCR	BNR34	小林真一	1'45.905	6
3	トライアル	BNR34	和田久	1'47.922	2
4	ディフェンド	BNR34	池田克久	1'47.986	4
5	H.T.F.	BNR34	菊池 靖	1'47.699	3
6	マインズ	BNR34	桂 伸一	1'46.785	5
リタイア	ガレーシハ橋	BCNR33	小林目雄		7
リタイア	Candy-MS	BCNR33	平松玉樹		8

ニスモのZチューニングGT-Rがポール・トゥ・フィニッシュ！
GT-Rクラスは、6台のBNR34と2台のBCNR33がエントリー。11月29日に行われた雨の予選。ポールポジションを獲得したのは、ニスモのZチューニングGT-R(田中哲也選手)。決勝はニスモの究極のデモカーに、チューニングショップがどこまで迫れるかが見どころになった。



ラーマンも
イッパイ
がんばった!?

スカイラインGT-R&シルビア
チューナーズバトル



イベント盛りだくさんのニスモフェスティバルだけど、なかでもOPT的に注目度大なのが、このチューナーズバトル。なにしろニスモから「出場してもらえませんか?」というオファーを受けたショップしか参加できないそうで、そんな選ばれしチューンドカーがガチンコ対決を繰り広げるってんだから、激アツなのは必至! さらに、今回からは一般ユーザー車両に近い状態でのイベントを目指すために、最低重量制限(GT-R:1600kg/シルビア:1300kg)を導入。よりイコールコンディションに近い状態でのバトルになったぞ! あ、そうそう、ちなみにラーマンはサンラインオートのS15で出場してマッス!!

●シルビアクラス

なみいるS15陣を押しさえ込み
S13が完全優勝を達成!

シルビアクラスにエントリーしてきたのはS15が5台、S14が1台、S13が1台の合計7台。まず、前日に終わった雨の予選を制したのは、S13を駆る川崎選手(オートランド山形)。2番手のラーマン(サンラインオート)に5秒近い差を付けての圧勝となった。この結果に「いやー、ウチはレインタイヤ(アドバンA049)だったからですよ。ドライだったらヤバかったと思います」と川崎選手。でもって、一夜明けての決勝レース。前日の雨の影響で、コースは「ドライ」ときどき「ハーフウェット」状態での戦い。そして2周のフォーメーションラップ後、ローリングスタート形式によりレース開始。スタートをキメたのはポールの川崎選手と予選3番手の古口選手(HPI)。それに2番手スタートのラーマンが続く。その後、5周の決勝レースはこの3台がバトルしながら後続を大きく引き離しチエッカ。S13がS15陣を押し込んで、ウインを決めたのでありました。

シルビアクラス決勝リザルト

順位	ショップ名	型式	ドライバー	ベストタイム	予選順位
1	AUTOLAND山形	S13	川崎俊英	1'47.707	1
2	HPI	S15	古口美穂	1'47.741	3
3	サンラインオート	S15	ラーマン山田	1'47.912	2
4	ヤシオファクトリー	S15	岡村和義	1'53.542	4
5	カッパツ	S14	香月信二	1'54.305	6
6	NISMO	S15	井出有治	1'55.908	7
7	シグナルオート	S15	中谷むねあき	2'01.815	5

ニスモがこの日のために新たに製作したというNISMO S15 SILVIA R-tune Proto。予選7番手、決勝6位と残念な結果になってしまったけど、まだ出来たてホヤホヤのプロタイプ。04年のニスモフェスティバルでは、上位に食い込んでくることを期待しよう。



熾烈なトップ争いを繰り広げるオートランド山形の川崎選手と、HPI-S15のドリフト帝王古口選手。ちなみに、後ろにチラッと見える赤いのがラーマン。3.703kmという長いT1サーキットで、ゴールしたときの1位と3位のタイム差は2秒ちょいしかなかった。それだけ、この3台は接近戦だったってことなんだ。



この赤いのが
オレ様ドライブだぞっ!



予選2番手 / 決勝3位

優勝できなかったラーマンの言い訳

オレ様が遅いんじゃないぞレギュレーションに負けたんだ!

通常の仕様は、2.2と化+T78-29Dタービンとウエイストゲート仕様。これによってサート1分39秒台という、チューンドGT-Rの中でもトップクラスの出る力を持っています。今回は触媒も付けて、タービンも開放NGで、タービンもまわらさなかった。

予選については、まあ雨でレインタイヤを履いていたオートランド山形S13についての2番手だから文句はねーだろ? で、決勝3位。これだっ、しょーがないよ。もともとさ、サンラインオートS15は重量1100kg、触媒なしで走ることを前提に作ってるわけ。それでブースト1.7kg/cm時に600ps。それをさ、レギュレーションに合わせるために200kgのウエイ増しをして、触媒も付けたら本来の走りなんてできるわけねーっつーの。T78-29Dタービンだよ。触媒付きでまわせるわけねーだろ。ブーストも1.4kg/cmしかかからないし、パワーバンドも極端に狭くなっていて4500rpm以下だとスカスカで6500rpm以上になると打ち止め。足まわりはいいかんじだから、コーナー進入〜クリッピングまでは前のクルマを突っつけるんだけど、立ち上がり〜ストレートで離されちゃう。な、オレ様は悪くないだろ?



チューナーズ
バトル
予選日
アラカルト

こんなん
反則だろ!?
作戦勝ち
だね!

やっち
またよー
エアロ割って
やんの

ヤシオファクトリーの田中選手、予選でいいタイムを出してました。その結果、予選順位は2位。決勝では、2位の田中選手と、3位の小林選手との間に、1秒以上の差が開きました。予選でいいタイムを出したのに、決勝では、2位の田中選手と、3位の小林選手との間に、1秒以上の差が開きました。予選でいいタイムを出したのに、決勝では、2位の田中選手と、3位の小林選手との間に、1秒以上の差が開きました。